

SBIグループのCSR活動

SBIグループは、社会正義に照らして

正しいことを真正面から事業化し、実践している企業集団です。

これらの事業の根底にあるものは、儲かるかどうかではなく、

「私たちの社会を公正で、快適で、環境適合的で、安全なものにしたい」という信念です。

CSRへの基本的考え

SBIグループは「企業は社会との共生のなかでのみ繁栄することができる。」との考えのもと、社会の一構成要素としてその社会性を認識し、さまざまなステークホルダーの要請に応えながら、社会の維持・発展に貢献していくとともに、「顧客中心主義」の基本観にもとづき、社会的信用の獲得に向けた事業を展開しています。「強い企業」から「強くて尊敬される企業」を目指して、本業を通じて社会に貢献すると同時に、公益財団法人 SBI子ども希望財団を通じて児童福祉向上の面での直接的な社会貢献も行っています。

ステークホルダーとの関係の構築

SBIグループは、事業を推進する過程において様々なステークホルダーからの社会的信用を獲得していくことを重要事項としてとらえ、ステークホルダーに対する企業価値向上に取り組んでいます。

本業を通じた社会貢献

SBIグループは、社会正義に照らして正しいことを事業化し、実践しています。本業そのものがCSRの推進に合致するこれらの事業活動を強力に推進しています。

直接的な社会貢献としての児童福祉の向上

本業を通じて社会に貢献するだけでなく、直接的な社会貢献活動として児童福祉の向上に取り組んでいます。虐待やネグレクト（養育放棄）などに起因する児童養護施設への入所は毎年増加しており、最も愛されるべき両親から虐待を受ける子どもたちが増加している事は、極めて憂慮すべき問題です。天然資源の少ない日本にとっては、人材こそが最大の資源であり、無限の可能性を持つ子どもたちが慈愛を持って健全に育てられなければ、日本は将来甚大な代償を払うことになりかねません。SBIグループは、日本の将来を担う子どもたちのために行動を起こすことは極めて重要な事だと考え、公益財団法人 SBI子ども希望財団を設立し、その活動を通じ児童福祉問題の解決に取り組んでいます。

公益財団法人 SBI子ども希望財団について

SBI子ども希望財団は、SBIグループが民間企業として培った知恵とネットワークを活用し、虐待された児童たちの自立を支援し、児童福祉の充実と向上のために活動しています。2005年から活動を続けているSBI子ども希望財団は、2010年に内閣総理大臣から公益財団法人として認定され、2011年には税額控除制度適用対象法人の証明を受けており、社会的信用の保持のみならず、「特定公益増進法人」として税制面での優遇を享受しています。その活動は、被虐待児童入所施設的环境向上・改善のための寄附や、児童養護施設に勤務するケアワーカーを対象にしたオン・ザ・ジョブ・トレーニングの提供、社会全体での児童虐待への取り組みを推進するための一般市民向け啓発活動など、多岐に及んでいます。

寄附実施金額は、2006年3月期から2013年3月期までの累計で7億8千万円となりました。また、SBI子ども希望財団は児童虐待防止の社会的啓発運動である「オレンジリボン・キャンペーン」を後援しており、毎年11月の虐待防止強化月間にはSBIグループ役員一同、オレンジリボンの着用や社内外への啓発活動に取り組んでいます。



「子ども虐待防止フォーラム」の様子

SBI子ども希望財団 4つの柱

